

## 「伝えやすい環境、関わりを深くしていかないと」

社員とのコミュニケーションで大事にしていることを久保氏は伝えやすい環境があってコミュニケーションがしっかり出来てくると考えている。上司や社員間で「笑顔で頑張りましょう」と声をかけると、とりあえず「はい」と答える場面が、どの職場でも多くあると思う、とりあえずの返事は意味がない。意味のあるコミュニケーションを取るためには、社員ともっと関わりを深くしていかないといけないと感じている。コロナ禍でコミュニケーションの機会は減っているが、小林紙工では会議室を装飾し、飲み会を実施。参加は自由で『Ok gのお肉食べきるまで帰れま10』とユーモアあるイベントを行い社員との飲みニケーションを行っている。

また、社内に本格的な駄菓子屋を作り、コミュニケーションが取りやすい環境作りを行っている。

人材不足や早期離職の防止、若者の応募がない、社員の高齢化、社員の意欲向上など会社が抱えている悩みを共有し、サポートできるセンターでありたいと考えています。なんでもお気軽にご相談ください。

ひろさき生活・仕事応援センター  
企業支援員 齊藤・宮本  
☎0172-36-3776



# 楽しい×仕事

社員とのコミュニケーション！！

## プラス思考！小林紙工

起きる事すべてをプラスに変えよう！



### 「しつこいと思われても社員に関わる」

会社として儲ける仕組みだけだと寂しい。せつかく縁があって一緒に仕事をしているから、社員とその家族も大切にしていきたい。久保氏の掲げるミッションである。

ある社員の出勤がいつもギリギリに出勤していた。「時間に余裕を持って家を出た方がいいよ」など久保氏や社員から話すが変わらず時間ギリギリの出勤をしていた。「事故を起こしてはいけないから気をつけて」と時間に余裕を持ち出勤するよう伝えるが、あまりしつこいと本人が嫌な思いをするのではないかとなくなかった。そして事故を起こしてしまったということがあった。久保氏は社員を大切に思うからこそ言いにくいことも伝えていくことが必要と感じた。どうしても定時での出勤が難しいなら出勤時間の変更など、本人の状況と本音に向き合う。

### 「久保氏へのインタビューを終えて・・・」

社員が自分の意見を言える環境であり、一つの意見を正しいとするのではなく、多様な意見、考え方から久保氏がまとめる会社の体制が感じられた。

コミュニケーションを取る上で久保氏が大事にしていることは言いやすい環境とある。なぜこんな事が起こるのかと思うことがあるが、言いづらいことを言ってあげることが本当の仲間であると考えており、仕事をする上で大事であると感じた。

# 変化×効果

既存にとらわれない！変革！！



## プラス思考！小林紙工

起きる事すべてをプラスに変えよう！

「原因の根本を探り、プラスに変える行動につなげる」

遅刻する人について、楽しいことがあると遅刻しない、仕事が楽しくないから遅刻するのではないか。社員のせいではなく、会社の環境を掘り下げる必要があるのではないか。原因は必ずある、それを探る。場合によっては会社のやり方を変えていく。

マイナス要素があれば探り、変える。その人を変えることはできないが、自分の捉え方、会社の環境を変えることは出来る。人は楽しいことを優先するからこそ、楽しめる環境が大切である。

### Episode1

「社長…封入作業つらいです。」

請求書の発送作業は、かなりの作業量になり、これまで一人の社員が1日ばかりで行っていた。その様子を見た久保氏が社員に質問する。「封入作業の日はどんな気持ちですか？」社員は「会社に行くのが憂鬱になります。」と久保氏へ伝える。この社員の気持ちをキッカケに封入選手権を開催！社員でチームをいくつか作り、チーム対抗で封入作業をすることにした。

一人の社員が憂鬱に会社へ入社し1日かけて行う作業が社内の楽しいイベントになった。みんなで盛り上がる作業に変わる。仕事はつらくて当たり前、それで給料をもらっているのだからと考える人は多いと思う。しかし、久保氏は仕事を楽しくしてもらいたいと強く思い、社員の本音を聞き、憂鬱な作業を「楽しい」に変えた。

### Episode2

「社長…話しかけにくい雰囲気です。」

営業担当者が帰社し、営業の報告を待っていたが、なかなか報告に来ない。「なぜすぐ報告しないのか」と社員に聞くと「表情が怖くて、話しかけにくいです」と。社員の気持ちを受け、久保氏は速やかな報告を求めていたが、報告しやすい雰囲気を自身は作る必要があることに気づく。

相手を変えるのではなく自分が変わることをはじめる。久保氏は楽しく仕事をしてほしいと強く思い、変化しながら環境づくりと改革を行っている。